

高等学校におけるリスクや損害保険の教育に関する実態調査 結果概要

〈全体について〉

- ・「生活におけるリスク」に関する教育を行うことが必要と回答した割合は全体で 96.2%となっている一方、「生活におけるリスク」に関する教育を実施していると回答した割合は全体で 59.4%となっている。また、損害保険に関する教育を行うことが必要と回答した割合は全体で 88.8%となっている一方、損害保険に関する教育を実施していると回答した割合は全体で 33.8%となっている。いずれも、教育が必要と回答した割合に対して、教育の実施割合が低くなっている。
- ・損害保険に関する教育を過去含めて実施したことがある教員は損害保険に関する授業の実施において、「授業時間数が足りない」、「教員の知識が不足している」、「教科書に記載が少ない」ことが主な課題として挙げられている。また、授業で損害保険に関する教育が必要と感じている教員において今後の損害保険に関する教育の実施に向けて重要と考えられる取組みでは、「授業時間の確保」、「副教材・ツールなどの充実」、「教科書の記載内容の充実」の回答割合が高く、課題解決に向けた取組みが重視されている。

〈金融経済教育について〉

● 高等学校での金融経済教育の実態(公民科)

- ・現在、金融経済教育を実施している割合は 59.5%である。
- ・主な授業内容は、「株式・債券・投資信託」(75.3%)が最も高く、次いで「クレジット・ローン」(53.3%)、「預貯金」(50.9%)となっている。

● 高等学校での金融経済教育の実態(家庭科)

- ・現在、金融経済教育を実施している割合は 95.0%である。
- ・主な授業内容は、「クレジット・ローン」(92.6%)が最も高く、次いで「預貯金」(67.5%)、「株式・債券・投資信託」(63.1%)となっている。

〈「生活におけるリスク」に関する教育について〉

● 高等学校での「生活におけるリスク」に関する教育の実態・必要性(公民科)

- ・現在、「生活におけるリスク」に関する教育を実施している割合は 36.5%と全体の 1/3 程度である。
- ・公民科を教えている教員の 92.7%は「生活におけるリスク」に関する教育が必要であると回答している。

● 高等学校での「生活におけるリスク」に関する教育の実態・必要性(家庭科)

- ・現在、「生活におけるリスク」に関する教育を実施している割合は 79.4%と全体の 8 割程度となっている。
- ・家庭科を教えている教員の 99.3%は「生活におけるリスク」に関する教育が必要であると回答している。

〈損害保険に関する教育について〉

● 高等学校での損害保険に関する教育の実態(公民科)

- ・現在、損害保険に関する教育実施をしている割合は 14.6%である。
- ・主な授業内容は、「社会保障制度(社会保険)と民間保険の違い」と「保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること」(56.1%)がいずれも最も高く、次いで「保険は少額の保険料で大きな補償を受ける仕組み(相互扶助)であること」(50.3%)となっている。
- ・年間の授業時間数は、「25 分未満」が 3～5 割程度を占めている。高等学校 1 年生については、過半数(52.0%)が「25 分未満」である。
- ・授業実施の上での課題として、「授業時間数が足りない」(52.6%)が最も高く、次いで「教科書に記載が少ない」(37.4%)となっている。
- ・授業で使用する教科書の内容が不十分であると感じている割合は 64.3%となっており、教科書会社が制作する副読本・資料集については、49.1%が不十分であると感じている。

● 高等学校での損害保険に関する教育への意識・意見等(公民科)

- ・公民科を教えている教員の 82.6%が損害保険に関する教育が必要であると回答している。主な理由は、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」(74.9%)が最も高く、次いで「一般教養として必要だと思うため」(47.7%)である。
- ・公民科を教えている教員の 42.5%が損害保険に関する教育を実施するために 25～50 分未満の授業時間が必要だと考えている。
- ・損害保険に関する教育を必要であると感じている教員が今後必要だと思う授業内容は「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害補償など)が存在すること」(65.4%)、「リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)」(61.5%)、「社会保障制度(社会保険)と民間保険の違い」(54.5%)となっている。
- ・今後の損害保険に関する教育の実施に向けて「授業時間の確保」(59.2%)、「教科書の記載内容の充実」(43.7%)、「副教材・ツールなどの充実」(41.2%)を重要な取組みとして考えている。

● 高等学校での損害保険に関する教育の実態(家庭科)

- ・現在、損害保険に関する教育を実施している割合は 50.0%である。
- ・主な授業内容は、「保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること」(77.0%)が最も高く、次いで「貯蓄と保険の違い」(70.6%)、「社会保障制度(社会保険)と民間保険の違い」(59.2%)と続いている。
- ・年間の授業時間数は、各学年いずれも「25 分未満」が 3～4 割程度を占めている。
- ・授業実施の上での課題として、「授業時間数が足りない」(62.4%)が最も高く、次いで「教員の知識が不足している」(38.0%)となっている。
- ・授業で使用する教科書の内容が不十分であると感じている割合は 61.6%である。また、教科書会社が制作する副読本・資料集については、48.7%が不十分だと感じている。

● 高等学校での損害保険に関する教育への意識・意見等(家庭科)

- ・家庭科を教えている教員の 94.3%が損害保険に関する教育が必要であると回答している。主な理由は、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」(75.6%)が最も高く、次いで「一般教養として必要だと思うため」(43.3%)と

なっている。

・家庭科を教えている教員の 41.6%が損害保険に関する教育を実施するために 25～50 分未満の授業時間が必要だと考えている。

・損害保険に関する教育を必要であると感じている教員が今後必要だと思う授業内容は「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害補償など)が存在すること」(78.7%)が最も高く、次いで「リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)」(69.6%)、「社会保障制度(社会保険)と民間保険の違い」(54.6%)となった。

・今後の損害保険に関する教育の実施に向けて「授業時間の確保」(58.2%)、「副教材・ツールなどの充実」(45.0%)、「教科書の記載内容の充実」(33.5%)を重要な取組みとして考えている。